



## かながわグランドデザインとSDGs

2015年9月に国連で採択された持続可能な開発のための2030アジェンダは、開発途上国の開発に関する課題にとどまらず、世界全体の経済、社会及び環境の三側面を不可分のものとして調和させる統合的取組みとして作成されました。そして、2030アジェンダは、先進国と開発途上国がともに取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として採択され、その中にSDGsとして17のゴール(目標)と169のターゲットが掲げられました。

県は、「かながわグランドデザイン基本構想」の基本理念に「いのち輝くマグネット神奈川」を掲げており、その取組みはSDGsの理念と軌を一にするものであることから、県がこれまで取り組んできた施策を進めることで、世界がめざす持続可能な社会の実現にも貢献するものと考えています。

そこで、各プロジェクトとSDGsの関係やSDGsの達成に結び付く県の具体的な取組み例を整理しました。



私たち一人ひとりの行動が、  
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県



# かながわグランドデザインとSDGs

県では、2012年3月に策定した県の総合計画「かながわグランドデザイン基本構想」の基本理念に、「いのち輝くマグネット神奈川」を掲げ、様々な施策を推進してきました。

県民の「いのち」を輝かせるために、医療だけでなく、環境、エネルギー、農業など、生活のすべてにわたって安全・安心を確保し、将来に向けて持続可能な形で維持していくため、総合的な施策を展開しています。

そうした中、2015年9月、国連サミットにおいて、国際社会全体の目標として「持続可能な開発目標」、いわゆるSDGsが全会一致で採択されました。

このSDGsの理念は、県がこれまで進めてきた「いのち輝くマグネット神奈川」の取組みと軌を一にするものと考えています。

こうした県の取組みが評価され、2018年6月には、国の「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」の両方に全国で唯一、都道府県として選定されたことから、今後もSDGs先進県として先頭を走っていききたいと考えています。

## SDGs達成に向けた視点

SDGsは、複雑化・多様化する社会的課題の解決に向けた包括的な取組みであるため、具体的な活動内容や「自分事」としてのイメージが湧きにくいとされています。そこで、SDGsを分かりやすく「見える化」し、県民、企業、市町村などと理念・目標を共有することで理解を促進し、SDGsにつながる行動をうながします。

また、世界的なESG投資拡大の潮流を踏まえ、社会的課題の解決に取り組む事業の社会的効果を「見える化」する仕組みを構築し、SDGsの達成につながる社会的投資を促進します。

## SDGsの特徴

- 「経済・社会・環境」の三側面をつなぐ統合的取組み
- 2030年のゴールに向けて逆算して現在の行動を決める「バックキャスト<sup>※</sup>」の考え方
- 県民、NPO、企業、大学、団体、市町村、県などすべてのステークホルダーとのパートナーシップ

※めざすべき社会の姿から振り返って現在すべきことを考える手法

## 「プロジェクトとSDGsの関係」と「SDGs推進に向けた主な取組み」について

まず、「第3期実施計画」の23のプロジェクトとSDGsの17のゴールとの関連を分析したものを「かながわグランドデザインのプロジェクトとSDGsの関係」として整理しました。⇒70～71ページ

また、SDGsの17のゴールは相互に関連しあうように設定されており、一つのアクションが第一歩となり、様々なゴールにつながり、SDGsの達成に結び付くことが特徴となっています。例えば「プラスチックごみ問題への取組み」はゴール14「海の豊かさを守ろう」の達成につながるだけでなく、

- 廃棄物の発生防止に資するためゴール12「つくる責任つかう責任」や
- きれいな住みやすい街の実現に資するためゴール11「住み続けられるまちづくりを」にもつながります。

そこで、23のプロジェクトの中からこうしたSDGsの達成に結び付く県の具体的な取組み例を、SDGsの17のゴールごとに「SDGs推進に向けた主な取組み」として取り上げ、関連するゴールとともに整理しました。⇒72～73ページ

今後も、SDGsを座標軸に、政策を更に進化させ、県として果たすべき役割や使命を実行することで、世界がめざす持続可能な社会の実現に貢献していきます。

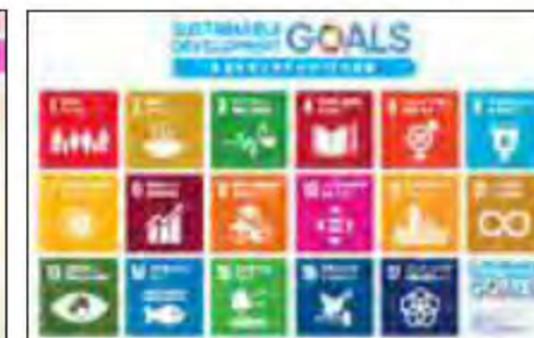
(参考)本県が策定したSDGsに係る指針等

①かながわSDGs取組方針

2018年12月、県、市町村、企業、大学、NPO、県民等の全てのステークホルダーと一体となってSDGsを推進することを目的に策定

②神奈川県SDGs未来都市計画

2018年8月、国と連携してSDGsを推進するため、2030年のあるべき姿とその実現に向けた2018年度から2020年度までの取組みを明らかにした「神奈川県SDGs未来都市計画」を策定



# かながわグランドデザインのプロジェクトとSDGsの関係

「第3期実施計画」の23のプロジェクトを構成する各事業とSDGsの17のゴールを構成する169のターゲットとの関連を調査し、表に整理したもの

かながわグランドデザインの23のプロジェクト

		SDGs17のゴール						
		1 貧困をなくそう	2 気候変動にゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなに
I 健康長寿	1 未病		●	●	●			
	2 医療			●	●			
	3 高齢者			●	●			
	4 障がい児・者			●	●			
II 経済のエンジン	5 エネルギー			●	●		●	
	6 産業振興			●	●			
	7 観光		●	●	●			
	8 農林水産		●	●	●	●		
III 安全・安心	9 減災			●	●	●	●	
	10 治安			●	●			
	11 安心	●		●	●	●		
IV ひとのチカラ	12 男女共同参画				●	●		
	13 子ども・青少年	●		●	●			
	14 学び・教育	●		●	●	●	●	
	15 文化芸術			●	●			
	16 スポーツ			●	●	●		
	17 雇用	●			●	●		
V まちづくり	18 地域活性化			●	●			●
	19 多文化共生			●	●	●		
	20 協働連携							●
	21 自然		●	●			●	●
	22 環境		●	●			●	●
	23 都市基盤	●		●		●	●	●

8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
●	●	●	●						●
●	●		●		●				
●	●	●	●					●	●
●	●	●	●		●				●
	●		●	●	●				
●	●								●
●	●								
●	●	●	●	●	●	●	●		
●	●		●	●	●		●		
●	●							●	
●	●		●		●			●	●
●	●	●						●	●
●	●		●					●	●
●	●								●
●	●	●	●	●	●	●	●		●
●	●		●		●		●		●
●	●		●		●		●		●
●	●	●	●	●	●	●	●		●

※ プロジェクトとSDGsとの関係を厳密に確認するため、プロジェクトを構成する各事業が17のゴールを構成する169のターゲットと直接関連するかどうか調査し、表に整理したものです。そのため、事業が169のターゲットに直接該当しない場合には、広い意味で17のゴールに関連すると考えられる場合であっても、●印を付さないこととして整理しています。また、一つの事業が複数のプロジェクトに該当する場合には、主たるプロジェクトにおいて関係を表示しています。

# SDGs推進に向けた主な取組み

※本表では、一番左の列に「県の主な取組み」が直接関連するゴールを掲げ、「県の主な取組み」の右側には関連するゴールを掲載しています。

ゴール	主な取組み (該当するプロジェクト番号)	「県の主な取組み」が関連するSDGsのゴール	「県の主な取組み」とSDGsのゴールとの関係
1 貧困をなくそう	子どもの貧困対策の推進 (PJ 13)	1, 3, 4, 8, 10, 11	生活保護世帯やひとり親家庭への支援などによる子どもの貧困の解消は、ゴール1「貧困をなくそう」の達成につながります。そのほか、子どもが健やかに育成される環境を整えることは、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」につながるとともに、所得差による教育の格差の解消は、ゴール4「質の高い教育をみんなに」につながるなど、複数のゴールに関連します。
2 飢餓をゼロに	農林水産業の活性化による地産地消の推進 (PJ 8)	2, 3, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15	農林水産業の活性化による地産地消の推進は、ゴール2「飢餓をゼロに」の達成につながります。そのほか、県民の求める農林水産物の提供や6次産業化の推進は、生産段階における食品の損失の減少に資するため、ゴール12「つくる責任つかう責任」につながるとともに、科学的根拠に基づく資源の評価と適切な管理は、海洋資源の持続可能な利用の実現に資するため、ゴール14「海の豊かさを守ろう」につながるなど、複数のゴールに関連します。
3 すべての人に健康と福祉を	健康長寿に向けた未病改善とかながわバラスポーツの推進 (PJ 1,3,16,18)	3, 4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	未病改善の取組みやかながわバラスポーツの推進は、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」の達成につながります。そのほか、健康団地をはじめ、未病改善を支える社会環境づくりに資するため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながり、また、年齢、障がいなどを越えてすべての人が同じようにスポーツを楽しむことをめざすかながわバラスポーツの推進は、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」につながるなど、複数のゴールに関連します。
4 質の高い教育をみんなに	生涯にわたる学びの推進や文化芸術活動の充実 (PJ 14,15)	4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	生涯にわたる学びの推進や文化芸術活動の充実は、ゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成につながります。そのほか、共生社会の担い手の育成に資するインクルーシブ教育の推進は、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」につながり、また、文化芸術の取組みは、伝統文化を含む文化芸術による地域のにぎわいを創出するため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、複数のゴールに関連します。
5 性別平等を推進しよう	あらゆる分野における女性の活躍促進と男女共同参画の推進 (PJ 12)	5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	あらゆる分野における女性の参画機会の確保やDV防止・被害者支援等の取組みは、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成につながります。そのほか、女性の就業支援等、働きがいのある仕事の確保は、ゴール8「働きがいも経済成長も」につながるなど、教育におけるジェンダー格差の解消は、ゴール4「質の高い教育をみんなに」につながるなど、複数のゴールに関連します。
6 安全な水とトイレを世界中に	安全で良質な水の安定供給の推進 (PJ 9,21,23)	6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	安全で良質な水の安定供給の推進は、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」の達成につながります。そのほか、水道管の更新や浄水場等の耐震化などによる自然災害にも強い強靱なインフラの整備は、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」につながり、また、森林整備による水源林の保全・再生は森林の回復に結び付くため、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」につながるなど、複数のゴールに関連します。
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギーの地産地消に向けた再生可能エネルギー等の導入拡大 (PJ 5)	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	再生可能エネルギー等の導入拡大は、ゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成につながります。そのほか、関連産業の振興に資するため、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」につながるなど、災害時でも停電のないくらしの実現に結び付くため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、複数のゴールに関連します。
8 働きがいも経済成長も	観光振興、産業活性化と働き方改革の推進 (PJ 6,7,15,17)	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	観光振興、産業活性化と働き方改革の推進は、ゴール8「働きがいも経済成長も」の達成につながります。そのほか、地域の観光資源や文化資源を活用した観光振興は、マグカルの取組みとも連動しながら、地域の活性化につながるため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」に、産業活性化は企業誘致や中小企業支援、地域産業育成に結び付くため、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に、働き方改革の推進は多様で柔軟な働き方の実現による女性の活躍推進に資するため、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」につながるなど、複数のゴールに関連します。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	最先端医療やロボットなどの成長産業の創出と育成 (PJ 2,6)	9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	最先端医療やロボットなどの成長産業の創出と育成は、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成につながります。そのほか、雇用の創出や地域経済の活性化に資するため、ゴール8「働きがいも経済成長も」につながるなど、ライフサイエンスなどの成長分野における付加価値の創出にも資するため、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」やゴール4「質の高い教育をみんなに」につながるなど、複数のゴールに関連します。
10 人や国の不平等をなくそう	外国籍県民等や障がい者に対する理解や活躍機会の拡大 (PJ 4,17,19)	10, 11, 12, 13, 14, 15, 17	外国籍県民等や障がい者に対する理解や活躍機会の拡大は、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」の達成につながります。そのほか、人権教育などにより多文化共生の地域社会づくりに資するため、ゴール4「質の高い教育をみんなに」につながるなど、「ともに生きる社会かながわ憲章」の普及啓発や障がい者が能力を發揮できる職場環境づくりなどによりディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい雇用)に結び付くため、ゴール8「働きがいも経済成長も」につながるなど、複数のゴールに関連します。
11 住み続けられるまちづくりを	持続可能で強靱なまちづくりと質の高いインフラの整備 (PJ 1,9,23)	11, 12, 13, 14, 15, 17	持続可能で強靱なまちづくりと質の高いインフラ整備は、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」の達成につながります。そのほか、河川等のインフラ整備などは防災・減災、国土強靱化対策に資するため、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」につながるなど、交通ネットワークの充実やスマートモビリティ社会の実現は地域経済の発展に結び付くため、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に、また、県営住宅の「健康団地」への再生は未病改善にも結び付くため、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」につながるなど、複数のゴールに関連します。
12 つくる責任つかう責任	将来世代に良好な環境をつなぐ循環型社会づくり (PJ 22)	12, 13, 14, 15, 17	将来世代に良好な環境をつなぐ循環型社会づくりは、ゴール12「つくる責任つかう責任」の達成につながります。そのほか、食品ロスを含む食品廃棄物の発生抑制やリサイクルの促進は環境上の悪影響の軽減に結び付くため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、プラスチックの取組みの推進は海洋汚染の防止や海洋ごみの削減に資するため、ゴール14「海の豊かさを守ろう」につながるなど、複数のゴールに関連します。
13 気候変動に具体的な対策を	地球温暖化等の気候変動への対策 (PJ 5,22)	13, 14, 15, 17	地球温暖化等の気候変動への対策は、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」の達成につながります。そのほか、省エネルギー対策の促進によるエネルギー効率の改善に資するため、ゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」につながるなど、気候変動の影響への適応の取組みは災害に強いまちづくりに結び付くため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、複数のゴールに関連します。
14 海の豊かさを守ろう	プラスチックごみ問題への取組み (PJ 22)	14, 15, 17	プラスチックごみ問題への取組みは、ゴール14「海の豊かさを守ろう」の達成につながります。そのほか、プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止や回収が廃棄物の発生防止に資するため、ゴール12「つくる責任つかう責任」につながるなど、きれいな住みやすい街の実現に資するため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、複数のゴールに関連します。
15 陸の豊かさを守ろう	次世代に引き継ぐ自然環境の保全・再生 (PJ 21)	15, 17	次世代に引き継ぐ自然環境の保全・再生は、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」の達成につながります。そのほか、生物多様性の保全や森林と里地里山の保全と活用の促進は、天然資源の効率的な利用に資するため、ゴール12「つくる責任つかう責任」につながるなど、良質な水の確保は、水利用の改善に資するため、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」につながるなど、複数のゴールに関連します。
16 平和と公正をすべての人に	犯罪の抑止・検挙、犯罪被害者などへの支援 (PJ 10,11)	16, 17	犯罪の抑止・検挙、犯罪被害者などへの支援は、ゴール16「平和と公正をすべての人に」の達成につながります。そのほか、地域における防犯活動や犯罪の抑止・検挙等は、犯罪や事故のない安全で安心なまちづくりに資するため、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながるなど、女性や子どもに対する暴力の排除にも結び付くため、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」や、健康的な生活の確保にも資するため、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」につながるなど、複数のゴールに関連します。
17 パートナリシップで目標を達成しよう	企業・大学・市町村・市民団体や海外との連携 (PJ 6,19,20など)	17	企業・大学等との連携・協定や、かながわSDGs/パートナー制度による連携、NPOへの支援と協働、MOU等に基づく国際展開に加え、神奈川の特徴を生かした友好交流先等との国際交流の推進は、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながるなど、複数のゴールに関連します。